

進捗報告書（実行団体）

Version 1.0

2021年10月5日

事業名:	困難を抱える親子の支援事業
資金分配団体:	
実行団体名:	一般社団法人 くじら雲
実施時期:	2021年5月～2022年2月
事業対象地域:	京都府
事業対象者:	不登校や障害などの課題を抱える子どもと、その保護者

I. 事業概要

事業概要

不登校の子どもや障害のある子どもを育てる家庭、ひとり親家庭など、困難な状況を抱えながら子育てをする家庭における、日常的な支援と関わりづくりをするため、話し相手や家事サポートなどの訪問支援、課題を抱えながら子育てをする保護者同士の語り合い会（オンラインでの実施も含む）、不登校の子どもの居場所づくりの活動を行う。

助成期間終了後に、事業を持続できるよう、今年度人材育成や記録アプリの作成など仕組みをつくっていくことと、「ここにこういう場所がある」という情報を、必要とされる方に届けていくことに重点を置いた事業を実施する。

II. 進捗報告の概要

総括

事業開始以降、本助成事業実施にかかる体制整備と、実際に支援を必要とされる方のニーズの掘り起こしを中心に進めてきました。

訪問して支援を行う「るくらす」、不登校の子どもたちを中心にした居場所づくり「イロトリドリ」を軸としながら、保護者の語らいの場「ことなば」、乳幼児と親子の居場所「そらな」という4つの事業を、それぞれ名前をつけて取り組みを進めています。

事業の実施体制はそれぞれ構築ができました。実際の支援については、居場所づくり事業が先行しており、具体的なニーズを把握する試行実施や、オープンデー、個別の見学を経て、10月から実際に子どもが通い始める状況になっています。

訪問支援については、折込広告での告知を行ったものの、実際の支援の希望はまだ少数にとどまっている状況です。引き続きニーズの掘り起こしと、利用のきっかけを、どうつくるかを考えた取り組みが必要です。

支援にあたる職員の対人援助の技能を向上させる研修も行っており、今後も継続して実施していきます。

10月以降、具体的な支援を動かしながら、来年度以降の継続につながるよう、特に訪問事業の進化に向けた取り組みを強化していきます。

Ⅲ.活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
① 訪問による生活支援が行えている ② 不登校児の居場所に必要とする子どもがきている ③ 困難な中で子育てをしている保護者のコミュニティができています	① まだ実際の支援が少数にとどまっている ② 登録が進み、実際に利用がはじまっている ③ 語らいの場は実施しているが、緊急事態の影響で予定した実施数よりは少なく、コミュニティとしての広がりは今後の取り組みが重要である

活動	進捗状況	概要
① 訪問支援を行う支援員（登録制の副業人材）の募集と育成 ② コーディネートのための事務局体制の確立 ③ 訪問による生活支援サービスの実施（話し相手・家事支援・学習支援など） ④ 課題を抱えながら子育てをする保護者同士の語り合い会の実施 ⑤ 不登校の子どもの居場所づくり ⑥ 不登校の子供の学習支援 ⑦ 生活支援の訪問記録共有のためのアプリ活用の検討	① 構築済 ② 構築済 ③ 開始しているが利用数はまだ少ない ④ 4回実施（オープンデー含む） ⑤ 試行実施やオープンデーを経て、10月から週3回の実施 ⑥ 利用児童からの個別のニーズがあれば上記の⑤と合わせて実施 ⑦ 実施見合わせ	① メンバーがなかなか現場の経験が積めていない点が課題 ② 次年度以降も同様に継続できる ③ 折り込みや置きチラシの効果がまだ出しておらず、主に口コミによる ④ 緊急事態の影響で一部予定したものを延期した ⑤ 子どもの居場所に必要な物品等も、ニーズを聞きながら準備してきた ⑥ とにかく学習を、とならないように子どもがどう過ごしたいかを面談で聞き取る中で、個別に対応 ⑦ いくつかの既存アプリを検討したが、初期導入費用よりランニングコストが課題で、助成事業終了後に安定的に活用できる目途が立たなかった。当面はエクセル等の活用で記録を共有していくこととした。

Ⅳ. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>メンバーが固まり、次年度以降も継続できる体制の構築を目標としていた。これについては順調に進み、次年度以降も継続して事業が実施できるメンバーの状態になっている。</p> <p>居場所事業については、必要とされる人に認識される状態に近づいており、今後の取り組みの中で定着をはかっていく。助成期間終了後に、参加費の負担をいただく中で事業を続けていくことを前提として事業を設計している。</p> <p>訪問事業については、まだ必要とされている方に認知されている状態というところまでは至っていないと考えており、後半の取り組みの中で、知っていただくこと、実際に使っていただくこと、利用者のフィードバックからより利用しやすい形にブラッシュアップしていくことに取り組んでいく。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥9275000	¥9275000	¥3418778	37%
	管理的経費	¥0	¥725000	¥725000	¥229972	32%
合計		¥0	¥10000000	¥10000000	¥3648750	36%

補足説明	<p>準備期間を含むため、特に人件費と会場費の執行率が低いが、今後の具体的な取り組み期間で必要な人件費が増えてくるため、総額では当初予算の規模となる予定である。</p> <p>アプリ構築のために見込んでいた費用は執行の予定がなくなったので、先に費目変更の申請を提出している。</p>
------	---

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>コロナ禍における居場所の持ち方については、いろいろご意見をいただいた。コロナ禍での孤立を防ぐための取り組みであり、緊急事態下でも、感染対策を行いつつも一定集まることが必要な場面もあると考え実施したが、SNS等での発信にあたっては、批判的なご意見も一部には存在した。緊急事態下における情報発信には、注意が必要であると感じている。</p> <p>訪問事業については、いただく利用料金で、助成期間後も継続して実施していけるものとしていくという思いを持って料金設定を行っているところであるが、利用者が実際に払えると思う金額とは開きがあるのではないかと指摘もいただいている。</p> <p>福祉制度によらない生活支援サービスが、基本ボランティアを前提としたものでは持続可能な事業にならないという理念をもった取り組みであり、安易にボランティア前提に切りかえたり、比較的高収入や金融資産を持つ方を対象にしていたり、というものではないと考えている。</p> <p>利用料などの仕組みの設計については、利用者の状況と事業継続性を考え今後も、最適解を考えた対応が必要と考えている。</p>

VII. その他

自由記述
<p>それぞれの事業が独立して動いているよりは、お互いに連携しながら居場所に来られた方が、訪問も使われるなどの広がりを持たせていくことが必要であると考えている。</p> <p>また、居場所についても、子ども・親子という対象を設定しつつも、想定した方よりも幅広い方がこられる場面や、子育て世代と大学生との交流など、新たな交流が生まれる場面もあり、今後の展開の可能性を感じている。</p>

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB 等)	無	
広報制作物等	有	るくらす チラシ イロトリドリ チラシ Facebook ページ・twitter・Instagram を使った広報
報告書等		

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	2021年7月2日 社員総会・理事会実施 評議会は制度なし	総会は年1回 理事会は定款上3か月毎で、次回10月で日程調整中
2. 内部通報制度は整備されていますか。	未整備	